

同時通訳者の身振りに関する研究（その2） 訓練生による英日同時通訳に関する事例研究¹⁾

古山 宣洋¹・野邊 修一²・染谷 泰正³・関根 和生⁴・鈴木美緒⁵・林 浩司⁶

(¹国立情報学研究所 ^{2,3,5}青山学院大学 ⁴白百合女子大学 ⁶東京大学)

*S*peech and gestures are an integral part of utterance production. In simultaneous interpretation, however, the use of gestures is limited or, at least, not encouraged when an utterance is produced. Thus, in a typical formal training setting, trainees are encouraged not to depend on gestures when engaged in simultaneous interpretation. Despite this anti-gestural policy, anecdotal evidence shows that some, if not all, simultaneous interpreters and trainees do produce gestures during their interpretation. Given this fact, the following questions arise. When do interpreters produce simultaneous gestures and what kind are they? Do gestures help them interpret? If so, in what way are they helpful? Do gestures change in quality as well as in quantity as trainees acquire the skill of simultaneous interpretation? With these questions in mind, we began building a corpus of videotaped data of simultaneous interpretations. Last year, we reported the results of an analysis of the data on simultaneous interpretation by a trainee from Japanese into English. This paper describes the results of an analysis of the data on simultaneous interpretation by the same trainee from English into Japanese. This analysis suggests that studies of interpreter speech and gestures will shed light on the process of interpretation from a new and unique perspective and provide new indices of the skill level of simultaneous interpretation and, hopefully, ideas for new methods of training simultaneous interpreters.

1. はじめに

我々は、同時通訳の訓練生が、個人差はあるにせよ、自発的身振りを産出すること、また、産出する場合、通訳の方略の変化にともなって、自発的身振りの頻度が変化すること、さらに、産出される自発的身振りを種類別に見た場合、産出された自発的身振りの総数に対する各々の割合が変化する可能性があることを、日英同時通訳の事例研究によって報告した（古山他、2005）。本論文では、同じ訓練生による英日同時通訳において同様の現象が観られるかどうかに関して行ったデータの分析結果を報告し、

FURUYAMA, N., NOBE, S., SOMEYA, Y., SEKINE, K., SUZUKI, M., & HAYASHI, K. "A Study on Simultaneous Interpreter Gesture (Part 2): A Corpus-based Case Study of English-to-Japanese Simultaneous Interpreting by a Trainee." *Interpretation Studies*, No. 6, December 2006, Pages 91-112.
(c) 2006 by the Japan Association for Interpretation Studies

自発的身振りという身体動作が、通訳遂行、そしてその技能の習得にとって持つ意味を検討することとする。

本章では、データの記述に先立ち、本研究の背景、ならびに身振り研究特有の用語などについて解説することとする（詳細はすでに古山他（2005）にて展開したので、そちらを合わせて参照されたい）。

一般に、通訳に関する研究や評価では、通訳の結果としての言語情報の内容だけが研究・評価の主たる対象となっている。そのため、同時通訳者の養成においても、評価対象とはならない、通訳者自身の顔の表情や、身振りなどの身体動作に依存した訳出をするのではなく、文法、語彙、命題の内容だけで聞き手に伝わる訳出をするように指導されることが多い（光藤, 2002）。認知的かつ言語的に高度な操作を、それを遂行する主体の身体と切り離す考え方は、認識や思考、言語に関わるあらゆる学問的探求において一般的な考え方であるが、最近の認知に関する諸科学では、行為者の身体が、命令系からの命令を単にそのままのかたちで実行するだけの存在である実行系としてだけでは捉え切れない、重要な役割を果たしていることが明らかにされつつある。特に、発話産出の基底にある思考過程を明らかにすることを目的とした心理言語学的な研究では、話者が発話とともに自発的に産出する身振りが、発話の産出過程と密接に関わっていることが実証されつつある（例えば、McNeill 1987, 1992）。翻って同時通訳の現場に目を転じると、同時通訳者の身振りについての非公式な報告例がある。また、冒頭で触れたように、すでに学問的な記述も始められている²⁾。身振りが同時通訳の遂行にどのように関わっているかという問題は、イメージ的な思考が言語の運用にどのように関わっているのかという、より一般的な問題の1つとして位置づけることのできる、重要な問題なのである。

ここで、本論文で取り上げる自発的身振りを記述する際の用語について簡単に説明しておきたい。自発的身振りとは、発話内容との類似性（例：「二足歩行」を表すのに、2本の指を下に向けて交互に動かすなど）や、身振りがいつ・どこで産出されたかといった時空的な布置（例：「これ」という発話と同時に、環境内のコップに向かって指差しをするなど）によって意味作用が成立する身振りを指す。後者は直示的身振り（*deictic gesture*）と呼ばれ、前者は類像的身振り（*iconics*）と呼ばれる。類像的身振りのように、直接表現する対象は「丸い容器」のような具体物であっても、「物語は容器である」といった隠喩的な関係を前提として、「物語」という抽象的な対象を間接的に表現することがある。これは、特に、隠喩的身振り（*metaphorics*）と呼ばれる。本稿では、類像的身振りと隠喩的身振りを合わせて、類似的身振りと呼ぶこととする。類似的身振りや直示的身振りは、手のかたちと意味との間に慣習的な取決めがある「OKサイン」のような、エンブレムと呼ばれる身振りや、手形と意味との間の取り決めのみならず、それらの要素がどのような順番もしくは構造で並ぶかを規定するいわゆる文法を備えた手話（日本手話など）とは対照的であり、自発的身振りを理解す

るには、それがいつ、どこで、どのようなかたちで産出されるかを知ることが不可欠である。さらに、ビートと呼ばれる身振りがある。拍子とも訳され、発話と同期する腕・手などの上下や左右の動きを指す。典型的には、動きは連続的かつリズムカルな微動であるが、1回のみ動きや、強調された発話に伴う大きな動きも存在する。

全ての身振りが、これらの下位範疇のいずれか1つのみにあてはまるというわけではない。例えば、「昨日釣った魚はこんなに大きかったんだよ！」という言語発話とともに、両手を広げその間隔で魚の大きさを示し、その手を上下に何度も小さく振る身振り、また、「君が今言ったことは間違っているよ！」という言語発話とともに、「君」に該当する人物に向けて右手で指差しをし、その手を上下に何度も小さく振る身振りが挙げられるが、それぞれ、前者は類像的身振りにビートの動きが加わったもの、後者は直示的身振りにビートの動きが加わったもの (*superimposed beats*) といえる (McNeill 1992)。上記のような自発的身振りは、人がいかにに関わり、どのように情報を処理しているのかという問題に絡めて議論がなされはじめており、自発的身振りに関する研究は、現在大きな広がりを見せ展開している。

2. 本研究で取り組む諸問題とコーパス構築

同時通訳者は、実際、同時通訳を遂行する際に、自発的身振り（以下、特に断りのない限り「身振り」のみで「自発的身振り」を指すものとする）を産出するのだろうか。そして、もし、身振りを産出するのであれば、いつ、どのような種類の身振りを産出するのか？ 身振りは通訳の補助となるのか？ もし、補助となるのなら、どのような意味で、あるいはどのようなかたちで役立つのか？ あるいは、同時通訳者が訓練を受ける過程で、身振りの量や質に変化は観られるのだろうか。本研究グループは、プロの同時通訳者の実践、セミプロレベルの同時通訳者の訓練状況、ならびに初学者の訓練状況について、それぞれコーパスを作成しているところであるが、本論文では、そのうち、訓練初心者を対象としたデータについて、これまでに明らかになりつつあることを詳細に記述し、検討していく。

3. 同時通訳訓練初心者のデータ収集と分析

3.1 方法

同時通訳訓練中の初心者については、これまでに第3著者が青山学院大学学部での実技中心の授業で指導する学部学生数十名を対象としたデータを収集している。このデータ収集は、基本的には授業の一環として行っているものであるが、受講生のうち2名については、さらに詳細に調べるために、授業外に個別にデータ収集に協力してもらい、縦断的な記録を行ってきた。そのうち1名は、あまり多くの身振りを産出しなかったが、本稿では、身振りをより頻繁に産出したMSについて、詳細に報告する。

MSは、米国にて2歳～8歳までの6年間生活経験のある、左利きの女性である。第

1 回目のデータ収集時で 20 歳、第 2 回目のデータ収集時で 22 歳であった。同時通訳の実習授業は、90 分を 1 コマとする授業を 1 週間に 1 度、2 年間で通算 46 コマ受講した。訓練内容は、主として英語から日本語への同時通訳訓練であった。以下で記述するデータのうち、第 1 試行は、学部 3 年生の春に訓練を開始してから 3 ヶ月後のものであり、第 2 試行は、それから約 2 年間経過した学部 4 年生の 2 月に記録されたものである。

課題に使用した題材は、*Interview with Akiko Shinoda*³⁾ と題された、通訳訓練のためのオンラインデータベースから得た教材（全体で 6 分 08 秒）であった。この題材についての基礎的なデータを表 1 に示す。

表 1 *Interview with Akiko Shinoda* に関するデータ

テキスト (表題)	<i>Interview with Akiko Shinoda.</i>
ソース	Online Database for Interpreter Training, Unit-12, Part 1
持続時間	6'08" (Timeline: 00.37.00 to 06.45.00)
平均発話速度	135 wpm
文の数	45
命題数	107
命題数 / 文の数	2.38
ST* の数	66
ST の数 / 文の数	1.62

* ST (Super Theme) = Clause-initial "Thematic" Adverbial Phrases and Logical Connectives

その内容は、篠田顕子氏が、自らの子供の頃の経験や同時通訳者としての失敗談などを回想しながら、インタビューの質問に答える形でかなりゆっくり (135 wpm) 話したものであった。被験者に課せられた課題は、インタビューを受けている篠田顕子氏の (英語) 発話だけを日本語に同時通訳することであった。当該課題の難易度は、この教材の性質とも関連しているので、数点補足したい。教材はインタビューである篠田氏の発話のみを同時通訳することなので、通訳中、たとえ一旦体勢を崩したとしても、インタビューの発話時に体勢を立て直すことが可能であると考えられる。また、上述したように、篠田氏が自らの個人的なエピソードを回想しながらゆっくり話した発話なので、文の数に対する命題数の割合や、ST 数の割合などに表れる文の構造という点では一定の複雑性が認められる題材ではあるが、触れられている情報相互に意味的な関連を見出しやすく、比較的理解や記憶のしやすい題材であると判断される。

データ収録は、MSが授業で使う青山学院大学文学部15号館通訳演習室で行われた。通訳の状況は、民生用 mini-DV カムコーダ 2 台で録画し、その際、音声は、起点言語と通訳をそれぞれ左右のチャンネルに分けて記録した。テーブルを前に、椅子に着座し、テーブルにはメモ用のパッドとボールペンが置かれ、授業での訓練と近い状況で記録を行った（撮影状況は 3.2.3 の静止画を参照されたい）。

3.2 分析

3.2.1 通訳に関する分析

分析の結果明らかとなりつつあることを、以下、通訳そのものに関する分析、通訳遂行中に通訳者が産出した身振りに関する分析の順で記述していく。通訳データは、本稿末尾の資料1から資料3 (pp. 105-112) に示したような形式でコーパス化するとともに詳細な分析を行い、その上で訳出された命題数、インストラクタによる評価などの数値化を行った。

表2は、第1試行、第2試行ごとに、起点言語の命題数に対して通訳できた命題数の割合を、頻度とともに示している。これによると、訳出された命題の割合は、第1試行での 59.81% (64/107) から、第2試行では 62.29% (72/107) と向上している。

表2 命題再生率

第1試行	59.81% (64/107)
第2試行	62.29% (72/107)

表3は、授業でMSの指導を担当する第3著者による、正確さ (accuracy)、文法性 (grammaticality)、伝達力 (communicability)、文の完結度 (degree of sentence completion) の4つの観点からなされた評価を、総合得点とともに示したものである。この表によると、4つの項目すべてにおいて成績が向上していることがわかる (図1, p. 104 のレーダーチャートも参照)。

表3 インストラクタによる評価⁴⁾

	正確さ	文法性	伝達力	文の完結度	総合点
第1試行	68.89% (93/135)	78.52% (106/135)	82.22% (111/135)	74.81% (101/135)	74.81% (411/540)
第2試行	70.37% (95/135)	87.41% (118/135)	90.37% (122/135)	88.15% (119/135)	83.15% (449/540)

表 4 は、躊躇、フィルター、フォルススタート、言い直しの総数を示したものである。表に示されているように、これらは、第 1 試行のほうが第 2 試行よりも頻繁に観られた。このことから、第 2 試行のほうが第 1 試行よりも流暢性の点で優っていたと言うことができる。

表 4 躊躇・フィルター・フォルススタート・言い直しの数

第 1 試行	34
第 2 試行	21

訳出の方略については、以下の点が指摘される。訳出そのものは、第 1 試行ではより逐語的であった。これに対し、第 2 試行では、必要十分な内容を、簡潔にまとめた通訳となっており、概念的により深いレベルで理解がなされた上で訳出されていたことが推測される。さらに、このことと深く関連するが、方略としては、第 1 試行では、いわゆる「即応 (immediate response)」方略を用い、次から次へと聞こえてくる句や節を、1 つずつ訳出している。これに対し、第 2 試行では、起点言語に対する応答は、一貫して、一定程度の遅れを伴っていた。これは、いわゆる「遅延 (wait-and-see)」方略を用いていたためだと考えられ、訳が要約的であるために必要だったのではないかと考えられる⁵⁾。

3.2.2 同時通訳中に生じた自発的身振りに関する分析

以上の通訳に関する分析を踏まえ、以下、身振りに関する分析について記述する。表 5 は第 1 試行と第 2 試行における身振りの頻度を示している。これによると、第 2 試行で産出された身振りの数は、第 1 試行の半分以下に激減していることがわかる。

表 5 身振りの産出量

第 1 試行	132
第 2 試行	64

この傾向は、日英同時通訳の結果とまったく同じだと言って良いと思われる (古山他, 2005)。第 1 試行から第 2 試行にかけて、身振りの数が激減していることは、上述の、通訳そのものの遂行における変化と関連があるのだろうか。身振りの頻度の内訳を、身振りの種類、身振りが利き手・非利き手のどちらでどのぐらいの量産出されたか、という観点から分析した結果を、以下、この順番で記述していく。

表6は、類似的身振り、直示的身振り、ビートの頻度を、第1試行と第2試行それぞれについて示している（ビートのカウントには類似的身振りや直示的身振りに重なったもの（superimposed beat）は含めていない）。これによると、第1試行と第2試行とのもっとも大きな相違は、第1試行において類似的身振りの占める割合が約44%であるのに対し、第2試行では約30%弱と減少していること、また、これとは対照的に、ビートについては、第1試行では約36%であるのに対し、第2試行では約47%と増加していることである。直示的身振りについては、頻度は身振り総数の減少と呼応して減少しているものの、割合については大きな違いが観られなかった。第1試行で頻出した類似的身振りは、ほとんどの場合、身振り空間において異なる主題を割り当てていた。また、第2試行で頻繁に観られたビートは語尾が延ばされた発話と同期することが多かった。

表6 産出された身振りの種類

	類似的身振り	直示的身振り	ビート	合計
第1試行	43.9% (58/132)	19.7% (26/132)	36.4% (48/132)	132 (100%)
第2試行	29.7% (19/64)	23.4% (15/64)	46.9% (30/64)	64 (100%)

表7は、産出された身振りの総量に対してどのぐらいの量の身振りが左右どちらの手で産出されたかを、試行と種類によって示している。

表7 身振りの種類と産出した手の左右差（※通訳者の利き手は左手）

	類似的身振り	直示的身振り	ビート	小計	合計	
第1試行	左手	43.2% (57/132)	18.9% (25/132)	11.4% (15/132)	73.5% (97/132)	132
	右手	0.8% (1/132)	0.8% (1/132)	25.0% (33/132)	26.5% (35/132)	
第2試行	左手	29.7% (19/64)	23.4% (15/64)	46.9% (30/64)	100% (64/64)	64
	右手	0	0	0	0	

小計が示す通り、第1試行では、左手が73.5%の身振りを、右手が26.5%の身振り

を産出しているが、第2試行では左手がすべての身振りを産出している。特に、第1試行でむしろ右手に多く観られたビートが、第2試行ではすべて、この訓練生の利き手である左手のみとなることは特筆に値する。かわりに右手のみに観られた類似的身振りの割合が下がる。

以上に報告した英日同時通訳データの量的分析結果は、古山他(2005)で報告した日英同時通訳データの量的分析結果と比較すると、第2試行で、第1試行よりも、身振りの総数に対するビートの割合が増えた点、類似的身振りの割合が大幅に減った点で共通する。

3.2.3 身振りの事例

本節を締めくくる前に、通訳の詳細な分析を示した付録から、同一の通訳ユニットを、第1試行と第2試行で、どのように同時通訳し、そしてその通訳発話にどのような身振りが伴ったかを、これまでの議論の典型例として、第1試行、第2試行の順で静止画とともに示す。対象としたのは、通訳ユニット41~43である。

[通訳ユニット 41-43]

And it's an extremely important piece of information and you would like to give it out as quickly as possible. But it's a piece of information on which you couldn't make a mistake. And so I waited for another few seconds to make sure.

[第1試行]

この部分の同時通訳として、第1試行でMSは以下のような訳出をしている。

[第1試行での訳出]

でも 受け取った情報というのはすぐに あの
お 表に出さなきゃいけないもんだと分かって
いましたけど たしか情報だけを出したかつ
たので… も一回 耳を澄まして聞いたら

この通訳発話にともなって、以下に記述するような身振りを産出している⁶⁾。

①左手を写真のようなかたちにし、親指以外の指4本を屈曲させて、自身の身体側に引き寄せるようにすることで、「受け取った情報」を表現。



①[__でも ... 受け取った**情報** というの] は

隠喩的 抽象的直示

②[**すぐ**]に
隠喩的

②その後、「すぐに」と同期しながら、親指以外の指4本を小さくかつ素早く伸展させ、「すぐに」という意味と、このあとに続く「表に出す」という意味を同時に表現している。身振りが、発話の意味を先取りしているかたちになる。

③左手を机上から浮かせながら、手が何かを掴むようなかたちになる。この状態で、「表に」と同期しながら1回外転し、「出さなきゃ」と同期しながら再度外転する。情報を運搬すべき対象と見立てるならば、それを掴むような手のかたちになるのは自然である。どちらの身振りも「表に出す」という意味を、上記の身振りよりもさらに明確に表現している。

④「たしかに」と「情報だけ」と同期しながら、何かを把持するような手のかたちで、今度は自身の身体側へ寄せる。「たしかに情報だけ」を表現している。上記身振り①を反復しているかたちになっており、この身振りとは直接同期はしていないものの、「通訳者（＝篠田氏）が受け取った」情報であるとの意味が暗に含まれているものと考えられる。したがって、発話と身振りを合わせた総合的な意味としては、「受け取った情報のうち確かなものだけ」という意味を表現していると解釈できる。

⑤「を出したかった」と同期して、左手がやや外転しながら自身の身体から遠ざかるように動き、「(情報を) 出したかった」という意味を表現。

⑥ ⑤の状態から左手を内転させ、掌で机上を覆うようなかたちになり、「[も一回]」、「[耳を]」「(澄まして聞いた)」の部分と同期して、前後に動く。

このように、MSは、第1試行では、通訳発話の内容が極めて具体的なレベルにまで及び、言及される要素（例えば「情報」や「通訳者」）間の関係（例えば、「受け取った」り、「表に出す」など）を、具体的なイメージとして身振りに表現していたと言えることができる。



③[(ano:) 表に出さなきゃいけないもんだと
隠喩的 隠喩的

分かっていましたけど]

隠喩的 隠喩的 隠喩的



④[たしかに情報だけ
隠喩的 隠喩的



⑤[を出したかった]ので…
隠喩的

[第2試行]

同じ箇所（通訳ユニット 41-43）の同時通訳として、第2試行でMSは以下のような訳出をしている。

[第2試行での訳出]

しかし 重要な* 重要な… # 情報 なのですが… 間違えてはいけないので 私は慎重になりました

これは、第1試行での訳出に比べると、かなりコンパクトにまとめられていることがわかる。この通訳発話に、以下に記述するような身振りが同期した。

⑦第2試行での、「しかし、重要な* 重要な# 情報なのですが間違えてはいけないので私は慎重になりました」のうち、2度目の「重要な…」と同期しながら、机上のある箇所を保持しているペンの先で差し、「重要な情報」の場所を身振り空間の中に設定した。これは抽象的な直示的身振りと捉えられ、本研究の分類では類似的な身振りに相当する。その後、「情報」の「じょう」の箇所、ならびに、「ですが」

で、同一の箇所を直示的身振りによって指差したが、それ以降の発話には身振りは生起しなかった。このように、身振りが全般的に少ない点、そして、特に類似的な身振りが少ない点で、第1試行の場合とは対照的である。

4. 考察～身体動作に着目した同時通訳研究の意義

これまで報告したように、同時通訳のパフォーマンスに向上が認められた第2試行では、第1試行に比べて、身振り総数に対する類似的な身振りの割合が減少し、また、ビートの割合が増えた。これらの現象は、日英同時通訳のデータ（古山他，2005）とも共通するものである。

第1試行で頻繁に観られた類似的な身振りにはどのような意味があるのだろうか。上に記述した第1試行からの事例にも観られるように、類似的な身振りは、例えば、「情報」を運搬される対象と見立て、そのような対象を「受け取った」り、「外に出し」たりといった内容を具体的なイメージとして表現する。そして、話が展開するとともに、新たな情報が付加されながらも、反復され、そのことで、共起している発話にはない意



⑥[も一回… 耳を] 澄[まして聞いた]ら…
直示的 抽象的直示 直示的



⑦しかし(重要な*)[重] [要な# 情報なのですが]
抽象的直示 直示的 直示的

間違えてはいけないので私は慎重になりました

味まで繋げ、相互に関連付けていく。④で記述した身振りはそのようなものの典型例である。これを含めた上記の事例（第1試行）では、身振りによって複数の意味を繋ぎ、重ね合わせていくことがうまく達成でき、通訳発話を構造化する思考の参照枠となっていたことは想像に難くない。しかしながら、意味が幾重にも重なっていくような身振りの使い方は常にうまく機能するとは限らない。これは、日英同時通訳データ（古山他，2005）でも観られた現象であるが、一定の限られた身振り空間や類似的身振りに異なる主題や意味を過度に割り当て過ぎると、混乱のもとになる。実際、このことと呼応するように、第1試行の通訳において、頻繁に躊躇や破綻が観られたのは偶然ではない可能性がある。

では、第2試行で急激に増加したビートにはどのような意味があるのだろうか。ビートには多くの機能があるが、基本は、「拍子」とも言われるように、リズムをとることである。第2試行では、前述したように、いわゆる遅延方略が用いられていた。これらのことを踏まえると、ビートは、何らかのかたちで、次に一気に訳出された発話を出すタイミングをとることを容易にするためのリズム構造を作り出すことに貢献していたことが考えられる。実際、上で記述した第2試行からの事例においても、いわゆる破綻はしていないものの、発話を細かく区切りながら、少しずつ発話しているのがわかる。これは、恐らく、起点言語の聴取を発話の合間に行っているためだと考えられる。この事例では単独のビートは観られなかったが、他の箇所では訳出の合間に起点言語を聞きながら、なおかつそれに先行する箇所の訳出をするという方略をよりスムーズにしていた。

冒頭で述べたように、通訳の訓練の場では、身振りをはじめとする非言語的な身体動作にはあまり多くの関心と注意が向けられていない。しかし、それにも拘わらず、今回の実験やこれまでの観察データ（古山他，2005）によれば、プロの同時通訳者も、まだ訓練を始めたばかりの初心者も、自発的な身振りを産出することが明らかとなった。また、初心者の訓練の過程において、通訳の総合的な技能が向上するに連れて、身振りの使用が、量的な点でも、身振りの種類の分布という質的な点でも変化してくることが明らかになった。もし、これらの変化に訓練生本人にとって何らかの機能的な意味があるのだとすれば、無理に身振りに依存しないようにと指導するのは、かえって弊害となる可能性がある。

さらに、仮に、通訳の技能の向上に伴う身振りの量的ならびに質的な変化に一般化することのできる一定の傾向が認められるならば、むしろ、これを、他の手段では明瞭には判断しえないような技能のある側面が向上しているかどうかを示す指標の1つとして有効に活用するという教育的な意義を見出すことも可能であるように思われる。今回詳細に報告したデータは、一人の初心者の学習過程しか反映していないのかも知れない。しかし、今後、通訳技能と身振りの関係をさらに研究していくことで、その可能性についてより深く理解できるようになると考えられる。他方、このような知見は、

言語と認知において、身振りが果たす役割の新たな一面を垣間見せてくれるものであり、そちらへの貢献も大きいと考えられる。

5. まとめ

本研究では、英日同時通訳の訓練を受ける訓練生について、訓練開始後3ヶ月後ならびに約2年後に行った *Interview with Akiko Shinoda* の英日同時通訳のパフォーマンスを、通訳発話とそれに同期する身振りに着目して観察し、分析した。その結果、同時通訳授業を受講している初心者は、個人差はあるものの、身振りを産出すること、また、身振りを産出する場合、通訳技術の向上や、訳出の際の方略の変化に伴って、身振りの量、規模、種類に変化が生じることが明らかとなった。これらの結果を踏まえ、身振りなどの身体動作に着目した同時通訳研究の意義や、実際の訓練における教育的な意義について考察した。本論文で試みられた記述は、現段階では量的にも質的にもまだまだ不十分なものであるが、今後、通訳の遂行と通訳者の身体性の関係に関する研究を続けていくことの意義があることは示せたのではないかと考えている。

著者紹介：

古山宣洋 (FURUYAMA Nobuhiro) 国立情報学研究所助教授。シカゴ大学大学院修了。

Ph.D. (心理学)。専門は心理言語学、生態心理学。日本生態心理学会理事。主な論文に「発話と身振りの記号論：個人内及び個人間での発話と身振りの協調による談話の構造化」斎藤洋典，喜多壮太郎（編），『ジェスチャー・行為・意味』共立出版，pp. 55-79, 2002、N. Furuyama: "Prolegomena of a Theory of Between-Person Coordination of Speech and Gesture," *International Journal of Human-Computer Studies*, 57, 347--374, 2002. などがある。

野邊修一 (NOBE Shuichi) 青山学院大学助教授。シカゴ大学大学院修了(Ph.D.)。専門は言語心理学、対人コミュニケーション論。主な論文に "Where do most spontaneous representational gestures actually occur with respect to speech?", *Language and Gesture*, McNeill (Ed.), Cambridge University Press (pp. 186-198)、**「擬人的キャラクターの動きと意味--ジェスチャーに対する注視と理解を中心に」** (共著) 『ジェスチャー・行為・意味』 斎藤・喜多 (編), 共立出版 (pp. 127-141)。

染谷泰正 (SOMEYA Yasumasa) 青山学院大学教授。東京大学大学院修了。専門は言語情報科学、コーパス言語学、通訳理論・通訳教育方法論。日本通訳学会理事。主な著作・論文に『通訳ノートテイキングの理論のための試論—認知言語学的考察』『通訳研究』第5号 (pp. 1-29)、『はじめてのシャドーイング』(鳥飼玖美子監修 染谷泰正・玉井健他共著) 学習研究社がある。

関根和生 (SEKINE Kazuki) 白百合女子大学大学院 文学研究科 発達心理学専攻 修士課程修了。現在、同専攻博士課程在学中。専門は発達心理学。

鈴木美緒 (SUZUKI Mio) 青山学院大学大学院 文学研究科 英米文学専攻 博士前期課程在学中。

林浩司 (HAYASHI Koji) 東京大学助手。東京大学大学院修士課程修了。専門は情報学、生態心理学。主な論文に K. Hayashi, N. Furuyama and H. Takase: "Intra- and Inter-personal Coordination of Speech, Gesture and Breathing Movements", 人工知能学会誌, Vol. 20, No. 3, pp. 247-258, 2005、林浩司・佐々木正人: 「ヴァイオリン演奏における身体運動協調の解析 一力の制御としてのヴィブラートの創発」, 生態心理学研究, Vol. 1, No. 1, pp. 91-98, 2004. などがある。

【註】

- 1) 本論文は平成 16-18 年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (C) (課題番号 16500165) の補助を受けて執筆された。
- 2) 非公式な報告には、例えば、David McNeill (私信) がある。また、日本通訳学会第 7 回大会にて本研究の研究発表を行ったところ、発表後、聴衆にいたプロの同時通訳者の方から、プロ (の同時通訳) の現場では身振りが頻繁に観られること、外国人同時通訳者に特にその傾向が強いとの指摘があった。
- 3) NHK「英会話上級」1996 年 12 月 25 日放送
- 4) 評価方法: [1] から [45] に分けた 45 の通訳ユニットについて、それぞれ表 3 の 4 つの評価項目ごとに優 (Good) = 3; 良 (Acceptable) = 2; 可 (Poor but tolerable) = 1; 不可 (Unacceptable) = 0 の 4 つのスケールによる評価を行い、その得点を合計した。評価項目 (ユニット) 数は 45、すべての項目について優 (3 ポイント) の評価が与えられると最大で 135 点となる。この最大限獲得することのできる得点を分母とし、実際に獲得した点を分子として達成率を算出した。
- 5) 即応方略と遅延方略のどちらを使うかは、そのまま熟達のレベルを示すわけではない。プロの同時通訳者でも、即応方略を採用する者もいれば、遅延方略を採用する者もいるからである。しかし、方略が異なる場合、通訳のパフォーマンスを同じ尺度 (例えば、訳出できた命題数または命題率など) で評価してもよいかどうかは疑問が残るところではある。
- 6) 写真の下に付した説明で身振りを記述する際、以下のようなシンボルを用いた。[= 身振り動作の開始、] = 身振り動作の終了、ボールド (太字) = 身振りの中心的な意味を担うストローク、下線 = 動作の停止であるホールド (ストロークの前の下線は pre-stroke、後の下線は post-stroke hold とそれぞれ理解する)。トランスクリプトには以下のシンボルを用いた。* = 自己中断。

【参考文献】

古山宣洋・野邊修一・染谷泰正・関根和生・林浩司 (2005). 「同時通訳者の身振りに関する研究」『通訳研究』第5号: 111-136.

McNeill, D. (1987). *Psycholinguistics: A New Approach*. Harper & Row.

----- (1992): *Hand and mind: What gestures reveal about thought*. The University of Chicago Press.

光藤京子 (2002). 「AVT (Audio-Visual Translation) としての通訳と今後の課題」『通訳研究』第2号: 87-98.

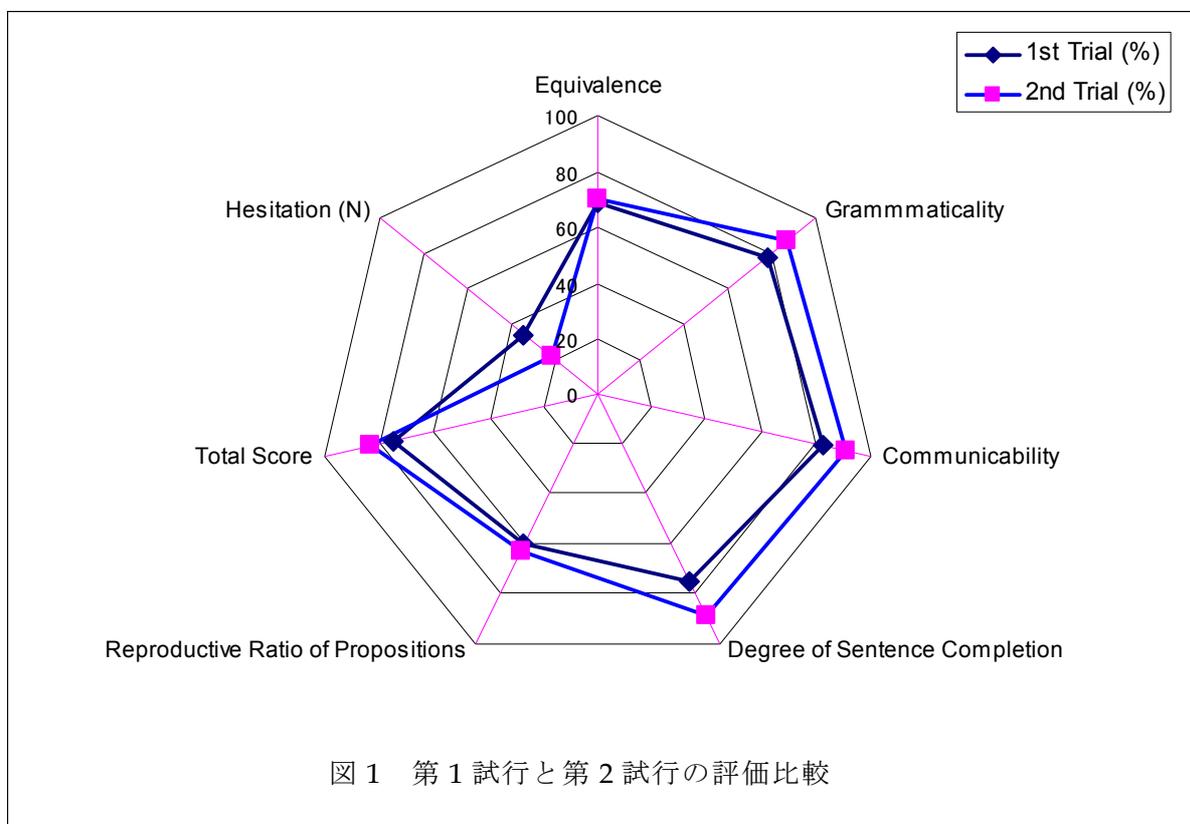


図1は表3 (p. 95) および表4 (p. 96) を合わせてレーダーチャート化し、第1試行 (1st trial) と第2試行 (2nd trial) の評価結果を比較したものである。このうち、Equivalence は表3の「正確さ」(accuracy) に対応し、Hesitation は表4の「躊躇・フィラー・フォルススタート・言い直しの数」に対応する。

資料 1 ANVIL (ジェスチャー分析用アノテーションソフトウェア) による分析画面 (抜粋)

The screenshot displays the ANVIL 4.5.12 software interface. The top window, titled "Video: smt_001_001.ind.avi", shows a woman wearing headphones and writing on a piece of paper at a desk. The right-hand panel, titled "Track: gesture.phase", displays the following attributes:

- Track: **gesture.phase**
- Time: 00:15:77 - 00:15:85 (2 frames)
- Attributes:
 - type: **stroke**
 - handedness: **left**
 - L-handshape: **S**
 - L-hand position: **C-LT**
 - L-hand P-orientation: **PTC**
 - L-hand F-orientation: **FAB**
- Comment: (empty text box)
- Buttons: **start**, **edit**, **end**, **cut**, **extend**, **del**

The bottom window, titled "Annotation: someya-test.anvil", shows a timeline from 00:15 to 00:20. The timeline includes several tracks:

- wave**: Audio waveform.
- praat**: Praat annotation track.
- Source**:

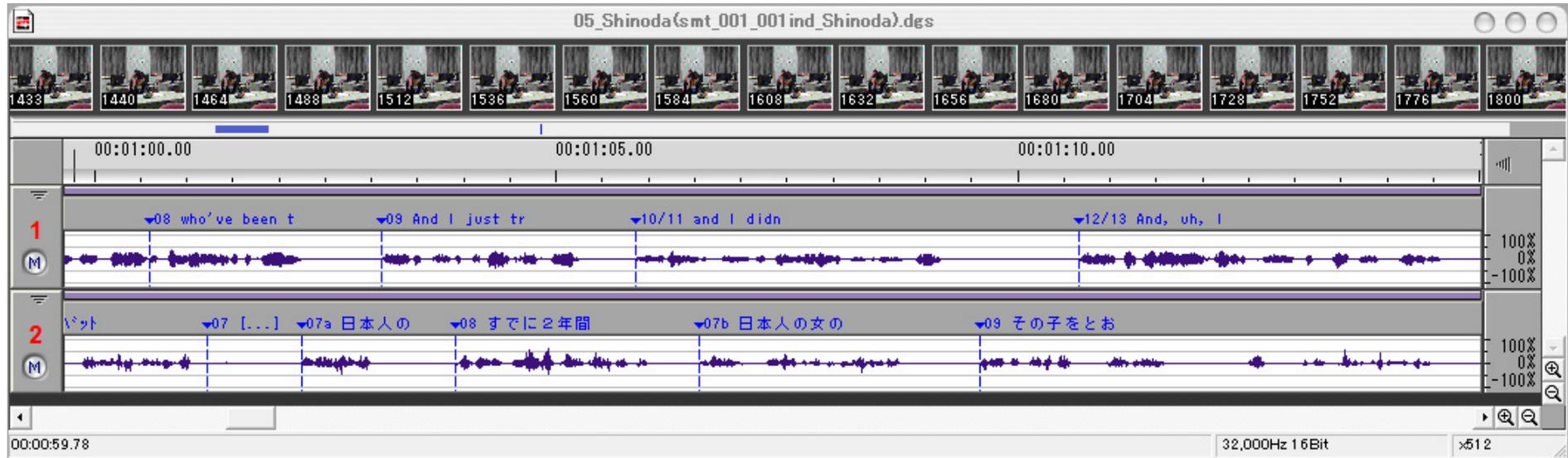
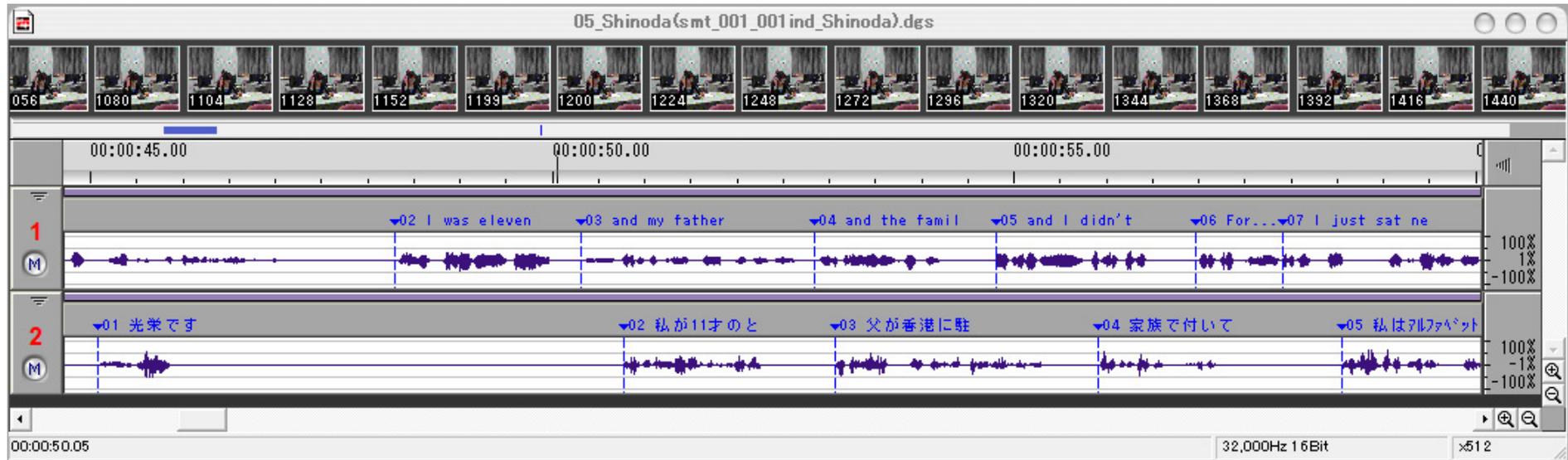
sourceL	ather	g...	transfere	to	Hong Kong	a...	family	went	wi...	him.	I	did, even	know	t...	alphabet.
class															
P-unit						C.. E-P4					E-P5				
- Target**:

targetL	oki	d...	ita.	Wa	no	titi	wa	Honkon	ni	tenkin	..na..	i	e..	kazoku	minna	de	tuit-	i..	i	m..	ita.
class																					
P-unit																					
- gesture**:

phase	s hold										retract	
phrase												
S-beat												
- r_gesture**:

phase	prep s.		p.. str..		prep str..		stroke		adaptor	
phrase	beat		beat		beat		beat		beat	
S-beat										

資料2 音声・映像・文字データ対応 英日同時通訳パラレルコーパス（抜粋） Timescale = H:M:S:MS



資料3 被験者 MS による課題文の同時通訳トランスクリプション

Timeline	▼00.37.00	▼00.44.05	▼00.44.11
[01]	[Interviewer: We are here with Akiko Shinoda. Akiko, thank you very much for joining us today.] You're welcome. It's my pleasure. [Interviewer: What was your first contract		
1st_03			[Doo itas-i-mas-ite.] どういたしまして
2nd_05			[Kooee des-u] 光栄です
Timeline	▼00.48.29	▼00.50.30	▼00.52.83
[02]	with the English language?] I was eleven years old, and my father got transfered to Hong Kong, and the family went with him. And I didn't even know the alphabet.		
1st_03	[Watasi ga zyuussai no toki des-ita] [Watasi no titi wa Honkon ni tenkin ni nar-i [kazoku minna de tuit-e ik-i mas-ita]] 私が 11才 の ときでした。 私の 父は 香港に 転勤に なり 家族 みんなで ついていきました。		
2nd_05	[Watasi ga zyuussai no toki des-ita] 私が 11才 の ときでした。	[Titi ga Honkon ni tyuuzai ni nar-i [kazoku de tuit-e 父が香港に駐在になり 家族で ついて	
Timeline	▼00.56.94	▼00.57.90	▼01.00.59
[03]	For the first three months, I just sat next to a Japanese girl who've been there already for two years, and I just tried to copy what she was doing. And I didn't understand		
1st_03	[Watasi wa arufabetto mo sir-a-nai zyootai des-ita] [Hazime no nikagetu wa [(on*) Nihonzin no onnanoko no tonari ni suwat-te [kanozyo no mane wo sit-e ir-u dake des-ita]]] 私は アルファベットも 知らない状態でした。 最初の 2ヶ月は (おん*) 日本人の 女の子の 隣に座って 彼女の 真似を しているだけでした。		
2nd_05	iki mas-ita] [Watasi wa arufabetto sae sira-na-kat-ta no des-uga [Nihonzin no いきました。 私はアルファベットさえ知らなかったのですが 日本人の	[sudeni ninenkan taizai s-ite ita] すでに2年間滞在している	Nihonzin onnanoko no 日本人の女の子の
Timeline	▼01.00.59		▼01.18.03
[04]	what was going on in the classroom at all. And uh I guess what I learned during that time is this infinite patience of sitting for hours and hours where I didn't understand.		
1st_03	[Kyoositu no naka de nani ga okot-te ru ka [nani mo rikai deki-mas-en des-ita]] [Sono [zutto nani wo sit-e-ru no ga waka-nnai zyootai wa [...]]] 教室の 中で 何が 起こっているか 何も 理解できませんでした。 その ずっと 何を しているのか わかんない 状態は [...]		
2nd_05	yoko ni suwar-i [sono ko wo toos-ite [kyoositu no koto wo kansatu s-ite i-mas-ita]]] 横に座って その子 を 通して 教室のことを観察していました。		[Kono [nani-mo se-zu ni suwat-te ita zikan この… 何もせずに座っている時間
Timeline	▼01.20.70	▼01.24.74	▼01.28.43
[05]	A:nd then uh the first English word I recognized or at least I kept hearing these kids saying something that sounded like uh “Never Mind” and they were		
1st_03	[(ss*) Sore de [(sai*) itiban saisyo ni rikai s-ita kotoba wa [kodomotati ga [hitasura “Nevaa Maindo” そ、それで さい 一番最初に 理解 した 言葉は 子供たちが ひたすら ネバーマインド		
2nd_05	wa [nani-mo rikai s-uru koto ga dek-i mas-en des-ita]] [Hazimete rikai s-uru koto ga dek-ita Eego wa [kodomotati ga (shi*) hinpan ni tuka-u “Nevaa Maindo”, は 何も 理解することが できませんでした。 はじめて 理解することができた英語は 子供たちが (し*) 頻繁に 使っていたネバーマインド		

Timeline	▼01.35.20	▼01.38.35	▼01.42.30
[06]	using that word constantly when, <i>pa*</i> particularly during recess, when we were playing. And uh I went back and I asked my governess. I had a governess at home at that time.		
1st_03	to yut-te ru [koto des-ta]] と 言っていることでした。	[Sore wa [yasumizikan ni yoku (ki* ki-ita) kotoba des-ita] それは 休み時間に よく き 聞いた 言葉でした。	[De [ie ni kaet-te* (eto) (ie ni*) (ie ni kaet-te)]] [kateekyoosi ni で、 家に帰って (eto) (家に*) 家に帰って 家庭教師に
2nd_05	ki ni s-uru na, to iu koto des-ita]] 気にするな ということ でした。	[Kodomotati wa hinpan ni sono kotoba wo 子供たちは 頻繁に その言葉を	[tokuni [ki (he etto) yasumizikan ni tukat-te i-mas-ita]] [Sosite [watasi wa ie ni kaer-i (u) とくに き (he etto) 休み時間に 使っていました。 そして 私は 家に帰り
Timeline	▼01.45.38	▼01.51.65	
[07]	A:nd then she said well it's u never mind and it means it's all right no worries. And I think it's rather nice word to start learning English with.		
1st_03	sono imi wo ki-ita toki その意味を聞いたとき	["Nevaa maindo" to iu kotoba wa ネバーマインド という言葉は	[sinpai ir-a nai yo to iu kotoba da [to iu koto wo oshie-te mora-i mas-ita]] 心配 いらぬよ という 言葉だ ということを 教えて もらい ました。
2nd_05	[zyosee no kateekyooshi ni sono imi wo kiki mas-ita]] 女性の 家庭教師に その意味を 聞きました	[--] [(So*) kanozoy ga iu ni wa [Nevaa Maindo wa [shinpai s-uru na to iu imi da そ、彼女が 言うには ネバーマインドは 心配するなという 意味だということ だ…	
Timeline	▼01.56.22	▼01.59.15	
[08]	So that was my first encounter. [Interviewer: Can you tell us about some of your experiences doing simultaneous interpretation -- the great ones and the horrible ones?]		
1st_03	[Eego no benkyoo hazime-ru ni wa ii kotoba dana [to omoi-mas-ita]] 英語の 勉強を 始めるには いい言葉だな と思いました。		
2nd_05	to iu koto (dass* to iu koto) desu]] と いうこと (だ* と いうこと) です。	[Desu kara [sore ga watasi no itiban hazime ni rikai s-ita (Nihon*) Eego des-ita]] ですから それが 私の 一番はじめに 理解した (日本*) 英語でした。	
Timeline	▼02.07.2	▼02.09.71	▼02.12.46
[09]	It's a lot of pressure, particularly when you are doing it on TV, because if you goofed, you know, you would be really destroying your career.		
1st_03	[(a) Pureshyaa ga taihen kakar-u mono des-ita [tokuni terebi de yat-te-ru toki des-u]] [Sore wa naze ka to iu to [sippai s-uru to (a) プレッシュャーが たいへんかかるものでした。 とくに テレビで やるときです。 それは なぜかという と 失敗すると [zibun no 自分の		
2nd_05	[(Etop *) totemo puresshaa no kakar-u koto des-u [tokuni [terebe de okona-u baai wa]]] [Mosi sippai s-ita baai # (Etop *) と てもプレッシュャーの かかる こと です。 とくに テレビで 行う場合は… もし 失敗した場合# [zibun no 自分の		
Timeline	▼02.21.94	▼02.24.32	▼02.30.34
[10]	Perhaps, um you know, agencies maybe watching it a:nd* and they will be, you know, finding out that you are not really, nearly as good an interpreter		
1st_03	(kya*) kyaria wo kizutuke-ru koto ni nar-u kara des-u]] [(e*) [Tuuyaku Kyookai no hito ga mite-ru (kaura*) kara kamo (n*) [mite-ru kamo sire-nai kara des-u]] [Sosite (キヤ*) キャリアを 傷つける こと に なるから です。 (e*) 通訳協会の 人が 見ている (から*) から、かも (n*) 見てるかもしれないから です。 そして		
2nd_05	kyaria wo* (ettom) wo kizutuk-eru koto ni nar-u koto de [Tuuya Kyookai no hitotati ga mit-e ir-u kamo sire-nai kara des-u]] [Sosite karera tati wa キャリアを* (ettom) を 傷つけること になる こと で… 通訳協会の 人たちが 見ているかもしれないから です。 そして 彼らたちは		

Timeline	▼02.38.24	▼02.42.21		
[11]	and things like that. So you really have to be able to bear that pressure.	A:nd uh: I am, I guess I'm quite good at it.		
1st_03	[watasi ga sonna ni ii tuuyakusya da to wa [omow-are naku nat-tyau kamo sire-nai kara des-u]] 私が そんなに いい 通訳者だと は 思われなく なっちゃうかも しれないからです。	[Desukara [sono puresyaa ni tae-ru koto ga taisetu nano des-u]] ですから その プレッシャーに 耐えることが 大切なのです。		
2nd_05	[watasi no rikiryoo wo utaga-u kara des-u] 私の 力量を 疑うからです。	[Sono puresyaa ni taer-u koto ga taisetu nano des-u] その プレッシャーに 耐えることが 大切なのです。		
Timeline	▼02.46.67	▼02.51.76	▼02.54.643	▼02.57.06
[12]	But even today, when it's uh: a press conference, or a news conference, just before I start interpreting uh I'm extremely nervous but once I start I'm okay because I forget everything.			
1st_03	[Watasi wa sono bun de wa tokui: des-ita] 私は その分では 得意 でした。		[(eto) [--] (eto) [--]	[(Tere*) Terebi nado de no (eeto) tuuyaku wa (テレ*) テレビ などでの (eeto) 通訳は
2nd_05	[Watasi wa sono pressyaa ni taer-u no ga totemo tokui [de* #- [tokui des-u ga [konniti de sae [(to) kaiken no ba ni oite wa [totemo kintyoo si mas-u]]] 私は そのプレッシャーに 耐えるのが とても 得意 で* #- 得意 ですが 今日でさえ (to) 会見の場においては とても 緊張します。			
Timeline	▼03.02.11	▼03.05.90	▼03.09.76	
[13]	But, uh, the time that when I was most tense was when uh: Bush, President Bush was here and he was at the banquet with Prime minister Miyazawa,			
1st_03	kintyoo s-imas-u]] 今でも 緊張します。	[(Eto) itiban kintyoo s-ita no wa [(Bussyu*) Bussyu Daitooryoo ga kotira ni iras-ita toki ni (Eto) 一番 緊張したのは (ブッシュ*) ブッシュ大統領が こちらに いらしたときに (宮澤	[(Miyazawa	
2nd_05	[Sikasi [watasi wa sono tuuyaku wo kaisi s-uru totan [sono kintyoo kara tok-are mas-u]] しかし 私は その 通訳を 開始するとたん その緊張から 解かれます。	[Watasi ga itiban kintyoo s-ita no wa # [(eto) Bussyu* Bussyu Daitooryoo ga 私が いちばん緊張したのは (eto) ブッシュ* ブッシュ大統領が		
Timeline	▼03.13.02	▼03.15.92	▼03.24.55	
[14]	and he collapsed during the banquet. A:nd um an hour after that, uh, the press secretary, I think he was uh: Fitzwater, was going to give a news conference			
1st_03	Dito* mm) Miyazawa Soori to yuusyoku wo tot-te iru toki des-ita] [...] [Itizikan go ni [kare ga taor-e (etto) [Fittuwootaa san 大統* mm) 宮澤総理と 夕食を とっている とき でした。 [...] 1時間後に 彼が 倒れ (etto) フィッツウォーターさん			
2nd_05	rainiti s-ita sai de # [(etto) bansan no totyuu de taor-ete si-mat-ta toki no koto des-u]] / [Sono toki [hoodootyookan ga 来日した際で (etto) 晩餐の 途中で 倒れてしまったとき の ことです。 そのとき… 報道長官が			
Timeline	▼03.27.86	▼03.34.40	▼03.39.28	
[15]	and to tell the media how the president is. A::nd so, while I was waiting for the press conference, I was just uh making an enormous list of			
1st_03	ga (eto) nyuusu no hoodoo (wo* ni*) wo uke-ru toki des-ita] [Sono toki Purezidento no yootai wo hookoku s-imas-ita]] [Watasi ga (sono*) sono nyuusu no hoodoo wo が (eto) ニュースの 報道 (を* に*) を 受ける ときでした。 その とき プレジデントの 容態を 報告 しました。 私が (その*) その ニュースの 報道を			
2nd_05	totyuu de kaiken wo hiraki [medhiya ni mukat-te # Dairooryoo no yootai wo setumei si-mas-ita]] / [Desukara [watasi wa sono kaiken wo mat-te ir-u toki 途中で 会見を開き メディアに 向けて 大統領の容態を 説明しました。 ですから 私は その会見を待っているとき			

Timeline	▼03.46.40	▼03.49.44	▼03.52.46
[16]	all the possible causes of his collapse, the possible illnesses that he maybe suffering, like I knew he had arrhythmia. And then uh: all kind of heart diseases like a:		
1st_03	mat-te iru toki (eto) [kare no taore-ta riyuu wo* 待っているとき (eto) 彼の 倒れた 理由を*		[kanoosee no aru: riyuu wo [subete nooto ni tori-mas-ita]] 可能性のある 理由を すべて ノート に とりました。
2nd_05	[watasi wa taoret-a genin to* 私は 倒れた 原因と*	(# tu) genin to omow-arer-u yoo na [kanoosee no ar-u byoozyoo wo [risuto ni age mas-ita]]] / (#tu) 原因と 思われるような可能性のある病状を リストに挙げました。	
Timeline	▼03.58.72	▼04.07.90	
[17]	what do you call it, uh:: ventricular: fib riliation or something like that. A::nd so, uh: it* when or if Fitzwater said or announced any of those ailments		
1st_03	[(ara*) arayuru sinzoobyoo [tatoeba tasika Bintekyuraa-Hurebyu-Reesyon toka [sooyuu yoo na namae no mono toka mo memo wo tori-mas-ita]] [Mosi [Fittuwootaa san ga あら、あらゆる 心臓病 例えば たしかベンティキュラ=フルビュ=レーションとか そういう ような 名前のものかも メモを とりました。 もし フィッツウォーターさんが		
2nd_05	[--] [Samazama na sinzoobyoo # [--] さまざまな 心臓病*	[seekaku ni wa wakar-a-nai sono yoo na sinzoobyoo no namae mo [risuto ni age mas-ita]] [Desukara [mosi 正確には わからない そのような 心臓病の名前も リストに挙げました。 ですから もし	
Timeline	▼04.13.97	▼04.17.28	▼04.20.77
[18]	I have to be able to translate it immediately into Japanese. So I was making all this list of illnesses and so forth. And just uh: using my imagination of		
1st_03	watasi no (n) memo s-ita izure ka no byooki wo nobe-ta no naraba [watasi wa sugu tuuyaku wo s-uru koto ga deki-mas-ita]] [Desukara 私の (n) メモした いすれかの 病気を 述べた の ならば 私は すぐ 通訳を することが できました。 ですから		
2nd_05	[Fittuwootaa tyookan ga sono yoo na risuto ni age-rar-eta byoozyoo setumei s-ita baai [watasi wa sugu ni yakus-u koto ga dek-iru kara des-u]]] / フィッツウォーター長官が そのような リストに挙げられた 病状を説明した場合 私は すぐに訳 することができるからです。 ですから		
Timeline	▼04.26.34	▼04.30.93	
[19]	what his conditions are now and so forth. And then finally Fitzwater came out and he started the press conference. And I knew that the information he was going to be giving		
1st_03	[watasi wa imazineesyon wo hukuramas-ite [kare no yootai wo yosoo s-imas-ita]] [Sosite [Fittuwootaa san ga yooyaku de-te ki-te [nyuusu no maede* (n) hoodoozin no mae de (ho*) 私は イマジネーションを ふくらまして 彼の 容態を 予想しました そして フィッツウォーターさんが ようやく 出てきて ニュースの前で (n) 報道陣の 前で (ho*)		
2nd_05	[watasi wa imazineesyon wo hurukatuyoo s-ite [(kare no*) Daitooryoo no yootai wo soozoo si-mas-ita]]] / 私は イマジネーションを フル活用して (彼の*) 大統領の 容態を 想像しました。		
Timeline	▼04.37.95	▼04.44.93	▼04.47.09
[20]	was of such enormous importance because depending on his, the president's condition, uh: the world could change I felt. Or US Japan relations could change.		
1st_03	hookoku wo si ni ki-mas-ita]] [Kare no iu koto wa (eto) taihen zyuuyoo na mono de [--]] [(Dai*) Daitooryoo no yootai ni yotte wa [sekai ga kawar-u kamo sire-nai kara des-ita]] 報告をしに 来ました。 彼の 言う ことは (eto) 大変 重要な もので [--] 大*, 大統領 の 容態によっては 世界が 変わる かもしれないからでした。		
2nd_05	[Sosite [Fittuwootaa san ga wareware no mae ni arawar-e [watasi wa sono toki [kare no hatugen ga そして フィッツウォーターさんが われわれの前に 現れて… 私はそのとき 彼の… 発言が とても重要な 世界をも変える可能性のある (ジユ u*)		

Timeline	▼04.52.62	▼04.58.14	▼05.00.93
[21]	Uh: What if uh: he had died or something. And so I was so tense. A::nd* and then uh . . .		
1st_03	[Ato [Nihon to Amerika no (eeto) kankei mo kawaru kamo sire-nai kara des-ita]] [Mosi [kare ga sin-da ri nanka sita-ra sore wa taihen na koto de]] [watasi wa totemo kincyoo あと、日本と アメリカの (eeto) 関係も 変わる かも しれない からでした。もし 彼が 死んだり なんかしたら それは 大変なことで 私は とても 緊張		
2nd_05	[zyuuyoo na koto de ar-u to iu koto (wo*) ni [kizuit-e i-mas-ita]] [Nitibee no kankee mo kore de kawar-u kamo sire nai kara des-u] [Mosi [Daitooryoo ga nakunat-ta ri nanka s-ite si-mat-ta ra 重要な ことであるということ (を*) に気づいていました。 日米の関係も これで変わるかも知れないからです。 もし 大統領が亡くなったり なんかしてしまったら		
Timeline	▼05.03.63	▼05.07.70	▼05.13.14 ▼05.16.75 ▼05.19.31
[22]	Mr. Fitzwater began by saying I guess uh President Bush is in his suite at Akasaka Palace and he's feeling fine. And I . . . translated that part, but I couldn't		
1st_03	sit-e imas-ita] [Fittuwootaa san wa kuti wo hirak-i mas-ita [Bussyu Daitooryoo wa Akasaka Paresu de beddo no naka de [(etto) daizyoobu da to iu koto des-ita]] していました。 フィッツウォーターさんは 口を 開きました プッシュ大統領は 赤坂パレスで ベッドの 中で (etto) 大丈夫だ ということでした。		
2nd_05	taihen des-u] [Desukara [watasi wa sugoku kintyoo si-mas-ita]] [Sositara [Fittuwootaa san ga (pu, dai) [Bussyu Daitooryoo wa # Akasaka de daizyoobu des-u たいへんです。 ですから 私は すごく緊張しました。 そしたら フィッツウォーターさんが (プ, だい) プッシュ大統領は # 赤坂で 大丈夫です		
Timeline	▼05.24.32	▼05.28.40	▼05.30.43
[23]	quite figure out what it was me* what he meant by he's feeling fine. How would you translate that into Japanese. Ogenki desu? Or kibun wa ii desu?		
1st_03	[Watasi wa (n) [sono kare no “Fiiringu Fain”, daizyoobu da to iu kotoba wo [dono yoo ni Nihongo de arawas-ita-ra ii ka mayo-i mas-ita]] [Ogenki des-u? [Mosiku wa 私は (n) その 彼の「フィーリングファイン」大丈夫だという言葉 を どのように日本語で表したらいいか 迷いました。 お元気です? もしくは		
2nd_05	[to iu koto des-ita]] [Sosite [watasi wa (s) sono # hatu*) sono happyoo wo yakus-oo to omot-ta no des-u ga [kare no hassit-a daizyobu des-u, “Fain”, to iu kotoba wa [hatashite ということでした。 そして 私は (s その# はつ*) その発表を 訳そうと思ったのですが、 彼の発した 大丈夫です「ファイン」という言葉は 果たして		
Timeline	▼05.32.59	▼05.36.16	▼05.41.78
[24]	A* I just, you know, it was to* too vague. and I was trying so hard to dis* determine which expression to use for that. And so I was concentrating so much on that		
1st_03	[kibun wa ii des-u?]] [Sono (Fa ain* heez) “Fain” to iu kotoba wa totemo (eeto) ayahuya na, uyamuya na kotoba de] [Sono hitokoto wo 気分はいいです? その (ファイン* heez) 「ファイン」という言葉は とても (eeto) あやふやな、うやむやな言葉で その一言を		
2nd_05	[ogenki des-u? [kibun wa ii des-u? [dono yoo ni* [amarini aimai de [dono yoo ni yakus-ita ra ii ka wakar-ana-kat-ta no des-u]]]]] / [Dono hyoogen wo tukat-ta ra ii no ka お元気です? 気分はいいです? どのように* あまりに曖昧で どのように訳したらいいか 分からなかったのです。 どの表現を 使ったらいいのか		
Timeline	▼05.44.83	▼05.48.18	▼05.50.35 ▼05.54.91
[25]	that I missed his next English part. But only I knew that it had a word that sounded like flu. A:nd uh: flu would mean, you know, it's just a minor illness.		
1st_03	yaku-su no ni sugoi sinkei wo tukat-te simat-te [kare ga tugi ni yut-ta koto wo kiki nogas-ite simai mas-ita]] [Demo [“Furuu” to iu kotoba ga mimi ni nokot-te ita no de やくすのに すごい神経を使ってしまって 彼が 次に 言ったことを 聞き逃して しまいました。 でも「フルー」という言葉が 耳に残っていたので…		
2nd_05	wakar-ana-kat-ta no des-u] [Soreni sugoku syuutyuu wo s-ite si-mat-te [tugi no hatuwa wo kiki nogas-ite si-mai- mas-ita]] / [De sono ato “Furuu” to iu hitokoto dake kyatti 分からなかったのです。 それに すごく 集中をして しまって 次の発話を 聞き逃して しまいました。 で そのあと「フルー」という 一言だけ キャッチ		

Timeline	▼06.02.08	▼06.04.74	▼06.06.72	▼06.11.42
[26]	A flu. And I thought, uh, couldn't be just a flu. Maybe it's just uh I didn't hear correctly. And it's an extremely important piece of information and			
1st_03	[(Furuu*) “Furuu” wa taisita byooki zya nai koto wo wakat-te itan no de [tada no “Furuu” na wake ga nai to omoi-mas-ita]] [Mosikasite [zibun ga tadasi-ku kikoe-nak-atta (フルー*)「フルー」は たいした病気じゃないことを 分かっていたので ただの「フルー」の わけがない と思いました。 もしかして 自分が 正しく 聞こえなかった			
2nd_05	s-uru koto ga dek-ita no de [“Furuu” wa tada no (sasai na*) sasai na byooki nano de [tada no “Furuu” - kaze na wake ga nai to omoi-mas-ita]] [Mosikasite [kiki matiga-eta no de wa することができたので… 「フルー」 はただの (ささいな*) ささいな病気なので… ただの フルー 風邪なわけがないと思いました。 もしかして 聞き間違えたのでは			
Timeline	▼06.18.32		▼06.22.75	
[27]	you would like to give it out as quickly as possible. But it's a piece of information on which you couldn't make a mistake. And so I waited for another few seconds to make sure.			
1st_03	dake kamo sire-nai to mo omoi-mas-ita]]	[Demo [uketot-ta zyoohoo to iu no wa sugu ni (ano:) omote ni dasa-nakya ike-nai mon da to wakat-te imas-ita [kedo だけかもしれない とも 思いました。		[Demo [uketot-ta zyoohoo to iu no wa sugu ni (ano:) omote ni dasa-nakya ike-nai mon da to wakat-te imas-ita [kedo でも 受け取った情報というのは すぐに (ano:) 表に 出さなきゃ いけないもんだと 分かって いました けど
2nd_05	to omoi mas-ita]]	[Sikasi [(zyuuyoo na*) zyuuyon na #	zyoohoo nano des-u ga	
	と思いましたが。	しかし (重要な*) 重要な… #	情報なのですが…	
Timeline	▼06.26.26	▼06.31.68	▼06.35.82	
[28]	And then again Fitzwater said this time very clearly, a bout of flu, and so I was able to translate it with confidence. But that sort of information (is), you know,			
1st_03	[tasika na zyoohoo dake wo das-ita-katta no de [mokkaï mimi wo sumas-ite ki-ita ra [moo ikkai “Furuu” to iu kotoba ga dete kita no de [zisin wo mot-te yakus-u koto ga deki-mas- たしかな 情報だけを 出したかったので も一回 耳を 澄まして 聞いたら もう一回「フルー」と いう言葉が 出てきたので 自信をも持って 訳すことが できま			
2nd_05	[matiga-ete wa ike-nai no de [watasi wa sintyoo ni nar-i mas- ita]] / [Sositara [Fittuwootaasan ga [mooitido [hakkiri to “Furuu” to iu kotoba wo (ki*) kuti ni s-ita no de 間違えてはいけけないので 私は慎重になりました。 そしたら フィッツウォーターさんが もう一度 はっきりと 「フルー」と言う言葉を (き*) 口にしたので			
Timeline	▼06.40.03	▼06.45.00	▼06.49.78	
[29]	extremely nerve-racking when you do interpreting of that sort.			
1st_03	ita]]]]]]	[注*]		
	した。			
2nd_05	[watasi wa zisin wo mot-te yakus-i mas-ita]]]]]] / [Sono yoo na (h) hatugen wa totemo ki wo tukaw-a na-ke ba ike-mas-en] / 私は自信を持って訳しました。 そ、そのような は、発言は とでも… 気を使わなければいけません。			

[注*] この最後の部分は、被験者は訳出にかかる意思および余裕はあったように見受けられるが、その前にビデオが終了してしまったので試験者のほうを振り返り何か質問をしようとしたために結果的に訳出を放棄した形になった。

Timeline = 経過時間

[nn] = 課題文の行番号 ([01] - [29])

1st_03 = 03年度実施の第1試行共通データ

2nd_05 = 05年度実施の第2試行共通データ